学校番号	211

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅱ文系②	単位数	２単位/４単位	年次	２年次
使用教科書	新編数学Ⅱ　（実教出版）						
副教材等	スパイラル数学Ⅱ（実教出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

１年次では皆さん共通の科目として「数学Ⅰ・A」を学習しました。２年次では「数学B」の選択の有無で「数学Ⅱ」の学習の進度・深度が変わります。

本講座は芸術科目を選択した生徒向けの講座です。教科書や副読本を用いて「数学Ⅱ」の基礎・標準レベルの内容の習得を目標とします。

また、「数学Ⅱ文系②」では「２章」「５章」の学習を行います。「数学Ⅱ文系①」と合わせて「数学Ⅱ」のすべての内容を学習します。成績は、「数学Ⅱ文系①」と「数学Ⅱ文系②」を合わせて、成績を算出します。

数学の土台は計算力です。「数学Ⅰ」の計算はある程度できる前提で「数学Ⅱ」の授業は進みます。特に、因数分解、２次方程式、２次不等式は、「数学Ⅱ」でも頻出です。苦手な人は、できるまで練習しましょう。

もし授業で分からない箇所が出てきたときは、友人や先生に質問したり教科書や参考書などを用いて練習したりして少しずつ克服してください。

なお、授業の内容は皆さんの理解度や希望進路に応じて変化させていく予定です。

2　学習の到達目標

(1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力，事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

(3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	2章　図形と方程式	1節　点と直線 1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係	a：内分点、外分点、重心の意味を理解し、それらの座標を求める公式を身に付けている。 b：二直線の交点や垂直であるための条件などを方程式を用いて考察することができる。 c：座標を用いて、点の位置や２点間の距離を求める解析幾何的な考え方のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養おうとする。	中テスト 定期考査	中テスト 定期考査	ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ評価 レポート
		2節 円 1. 円の方程式 2. 円と直線	a：円について、いろいろな条件を式で表現し、その円の方程式を求めることができる。 b：図形を「条件を満たす点の集合」とする数学的な見方や考え方を認識できる。 c：図形を方程式で表すことのよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養おうとする。	中テスト 定期考査	中テスト 定期考査	ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ評価 レポート
2学期	2章　図形と方程式	3節 軌跡と領域 1. 軌跡と方程式 2. 不等式の表す領域 3. 連立不等式の表す領域	a：軌跡と領域について理解している。 b：不等式を満たす数値を座標平面上の領域として表現でき、座標平面上の領域を不等式で表現できる。 c：軌跡と領域のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養おうとする。	中テスト 定期考査	中テスト 定期考査	ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ評価 レポート

	5章 微分法と積分法	1節 微分係数と導関数 1. 平均変化率と微分係数 2. 導関数 3. 接線の方程式	a: 極限の考え方について理解し、平均変化率, 微分係数, 導関数を求めることができる。 b: 微分係数と導関数の関係を理解し, 微分係数の図形的意味を考察することができる c: 微分係数と導関数のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養おうとする。	中テスト 定期考査	中テスト 定期考査	ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ評価 レポート
		2節 微分法の応用 1. 関数の増減と極大・極小 2. 方程式・不等式への応用	a: 導関数を活用して、関数の増減や極値を求めることができる。 b: 方程式や不等式の解について、グラフと x 軸との位置関係から調べられることを認識している。 c: 導関数を活用して、関数の増加、減少を調べる考え方のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養おうとする。	中テスト 定期考査	中テスト 定期考査	ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ評価 レポート
3学期		3節 積分法 1. 不定積分 2. 定積分 3. 定積分と面積	a: 微分の逆演算として不定積分を導く考え方を理解し、積分の考えが図形の計量に活用できることを理解している。 b: 微分と不定積分の関係を用いて, 積分の公式を考察することができる。 c: 微分と積分の関係、定積分と面積の関係のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養おうとする。	中テスト 定期考査	中テスト 定期考査	ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ評価 レポート

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度